

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3 - 4 3	第4回墨田区基本計画等有識者懇談会		
開催日時	平成28年1月29日(金)午後6時30分から午後8時30分まで			
開催場所	区役所庁議室			
出席者数	8人 【外部有識者】 有田智一、奥山雅之、久保田福美、羽生冬佳 村上正浩 【区】 高野祐次(副区長)、関口芳正(企画経営室長) 岩瀬均(企画経営室参事)			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	6人
	非公開(傍聴できない)			
議 題	1 副区長あいさつ 2 意見交換 「墨田区総合戦略(素案)」について 3 その他、連絡事項等			
配付資料	資料1 出席者名簿 資料2 墨田区総合戦略(素案)			
会議概要	1 開会 2 副区長あいさつ 副区長から、懇談会開催に当たってのあいさつを行った。 3 「墨田区総合戦略(素案)」について 企画経営室参事から、資料2「墨田区総合戦略(素案)」を用いて説明を行った後、意見交換を行った 【主な意見等】 (1) 全体について <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標と各施策がつながっているように見えないので、もっと見せ方を整理すべき。「具体的な事業」で掲げられた各事業は、KPIの上に記載されている文章のうち、どこを実現が目指されたものなのかわかるよう 			

にすべき。

- ・ 基本計画でキーワードとなるフレーズは総合戦略にも入れるべき。基本計画と総合戦略は、最終的に目指すところはつながるものであるはず。
- ・ 本区が本当に目標人口の規模を受け入れられるのかが疑問である。また、人口を増加させるという目標が、地方創生の趣旨の一つである「東京一極集中の解消」に逆行するようにも見えるが、区の考え方を整理すべきである。
- ・ 目標人口は絶対的な指標ではなく、「挙げている施策を展開すれば、この人口になる」ということを示したものと捉えると、重要なのは施策内容で、どれだけ本区に愛着を持つ人を育てられるかにある。

(2) 基本目標 「暮らし続けたいまち」の実現

- ・ 暮らし「続ける」ことについて、指標が設定されるべき。国勢調査では、年齢別で、現住地に住み続けている年数のデータを取ることが可能。「20歳～34歳までの女性」等、対象を絞り指標としたらどうか。
- ・ シンプルに「暮らし続けたいと思う区民の割合」「働き続けたいと思う区民の割合」を指標としても良いのではないか。
- ・ 出産後の20年は、人間の寿命で考えたら限られた短い期間である。子どもが巣立っても暮らし続けたい、あるいは将来このまちで子どもを育てたいという気持ちを醸成することも重要であり、子育て世代以外へのアプローチも必要ではないか。
- ・ 暮らし続けたいまちの実現には、コミュニティづくりが重要である。教育は、企業や地域との綿密な連携が必要であり、これは、学校と地域による単発事業を展開するだけでは解決しない。点として存在する事業を、線・面にする取組が求められる。
- ・ 国は、学校支援本部を強化していく流れにある。学校や地域毎に支援ネットワークを構築する等して、地域や企業、学校の関わり方をトータルで考えていくべき。学校を支える仕組みの中で地域人材が育ち、まちも育っていく。
- ・ (4)は、子育てに関する住環境、安全、安心という3つの要素が含まれ、それぞれの指標が必要である。さらにそれぞれ「個」と「面」の双方で見る指標があった方が良い。
- ・ 「遊具が揃っている公園の面積」であれば子育て支援公園に係る指標とわかるが、単なる「公園面積」では指標設定の趣旨がわからない。
- ・ 犯罪の認知件数は数自体の評価は難しく、減少率を用いることも検討すべきである。また、区民が安心と感じている割合等、安心について個がどのように捉えているかという指標も併用すべきである。

(3) 基本目標 「働き続けたいまち」の実現

- ・ 特化係数は指標として適切であるか疑問である。製造業と小売業以外の割合は落としてもいいと区が考えていると読めてしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業については、シンプルに製造業の事業所数、従業員数を指標に置き、これ以上減らさないというメッセージを打ち出したらどうか。 ・ 小売業は、本区がどの程度シェアを有しているかが大切である。「都内における区内商業の年間販売額シェア」等が考えられる。 <p>(4) 基本目標 「訪れたいまち」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国のブランド力順位は、認知度等の合成指標であるが、公が用いる指標として適切であるか疑問である。来訪（再来訪）意向、来訪した観光客の満足度等の方が適切ではないか。なお、(4)のKPIとして「満足度」が入っているが、満足度はおもてなしによってだけでもたらされるものではないので、基本目標の数値目標に移動させてもよいのではないか。 ・ 受け入れる住民側にも良い効果をもたらすことが大切である。訪れる人との交流によって、区民・区内事業者が「暮らし続けたい・働き続けたい」となるような取組が求められるのではないか。このことから「交流することで住民の満足度が高まり」や「区内事業者の製造への意欲の高まり」等を指標としたらどうか。そういった意味で「新製品開発件数」は、こちらの指標としても良いのではないか。 ・ 基本目標 が「発信」から始まっていることに違和感がある。まずは「すみだの資源」という本質の部分が初めにあるべき。環境づくり、受け入れ体制、情報発信という順番が適切なのではないか。 ・ 回遊促進のための具体策が示されていない。再掲という形でも良いので、安全な道路づくり等を掲げるべきではないか。 ・ オリンピック・パラリンピックについては、区民の参加意欲の醸成が重要である。ボランティアまで求めなくても、単なる「観客」でも良いので「参加すること」が大切であり、その点を踏まえた指標を設定してはどうか。 ・ 案内機能の充実が指標とすべきものである。単純に案内板をいくつ整備するかという話ではなく、案内ボランティアの参加意欲（養成人数）等、案内機能自体の充実を指標とすべきである。 <p>4 その他 企画経営室参事から、次回日程等について連絡を行った。</p>
所 管 課	企画経営室政策担当